

令和2年度
こころ医療福祉専門学校佐世保校
学校自己評価結果報告書

令和3年4月1日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標 令和2年度

1 岩永学園ビジョン

地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる。

2 ビジョン実現に向けたテーマ

- (1) 地域社会から「必要とされる組織であり続ける。
- (2) 地域社会から必要とされる人材を提供する。

3 学校経営スローガン

- (1) 専門力と人間力を併せ持つ、心豊かなプロフェッショナルの育成
- (2) 地域社会から必要とされる人材を提供する。

4 重点教育目標

- (1) 教育の質の向上
- (2) 国家試験合格率及び就職率100%達成
- (3) 日本語能力試験(JLPT)合格率の向上
- (4) 学生募集の取り組み＝全員協力体制
- (5) 「PDCAシステム」の活用＝部署・学科単位の目標達成へ向けての協力体制

5 具体的な対策

- (1) 授業の充実と教育の質の向上
- (2) 豊かな人間力の育成
- (3) 退学者の減少対策
- (4) 国家試験(日本語能力試験JLPT)対策の充実
- (5) 進路指導・就職指導の充実
- (6) 広報活動の充実

6 地域社会との関係

- (1) 学園ビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる。」の具現化
- (2) 連携諸施設との関係強化
- (3) 地域行事(地域清掃・地域の催し等)へ積極的に参加することによる地域自治体との交流の深化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 授業の充実と教育の質の向上

- ① 学生による授業評価と教職員による互換授業の実施
- ② 日本語教育に係る学園内研修会の実施と情報の共有
- ③ 外部研修会への積極的参加

(2) 豊かな人間力の育成

- ① 学級経営を通して、学生と学生、学生と教職員の信頼関係の構築
- ② ボランティア活動への積極的な参加(トレーナー部活動を中心に)
- ③ 地域行事(地域清掃・地域の催し等)への積極的な参加

(3) 退学者の減少対策

- ① 個別面談と悩み調査の実施
- ② 学科会の充実と情報の共有
- ③ カウンセラー相談の活用

(4) 国家資格試験及び日本語能力試験対策の充実

- ① 個別面談による意識啓発、学生理解の深化
- ② 「国家資格試験年間指導計画」に基づく指導の推進
- ③ 日本語能力試験で全員N4以上合格と大学進学を含めた進路指導強化

(5) 進路指導・就職指導の充実

- ① 「就職指導年間計画」に基づく指導の推進
- ② 早期個別面談実施による意識啓発と学生理解の深化
- ③ 「卒後教育」の充実

(6) 広報活動の充実

- ① 高校や治療院との関係強化—高校訪問・治療院訪問・情報提供
- ② 広報課を中心に学校全教職員協力体制としての募集活動
- ③ 各種ガイダンス参加者のオープンキャンパス等来校率の向上

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	専門性の高い知識や技能と豊かな人間性あふれる人材育成を目指し、専門分野への就職の支援を通じて社会に貢献する理念が学生便覧等に明確に定められている。 【教職員アンケート質問1 3.7】
・学校における職業教育の特色は何か。	④	3	2	1	専門的な経験の深い専任教員により、業界との連携を重視し専門的技術の修得のみならず学園理念に基づき、人間性溢れるプロフェッショナルを目指す人材育成に努めている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	④	3	2	1	超高齢化社会に備え本学園が経営する4事業間との連携を通して、将来を見通した社会や関連業界のニーズに応じるための学校経営を計画している。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係者等に周知されているか。	4	③	2	1	入学前のガイダンスや入学後は、保護者面談やHP、こころ新聞等で周知活動に努めている。 【教職員アンケート質問2 3.0】 【学生アンケート質問1 3.7】 平均3.4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	③	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、関連業界の動向と将来性を注視、情報交換を通して学校・学科運営に反映させている。

①課題

教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会等を通して、関連業界との連携を更に深化させる。

②今後の改善方策

・関連業界と常に情報を交換・共有し、関連業界のニーズに応え、業界・地域に貢献できるこころ豊かなプロフェッショナルの育成に努める。
・学園理念や教育目標について、インターネット・保護者面談・配布物等により、周知の機会を増やす。
・配布物(こころ新聞・パンフレット等)の内容を充実させる。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	④	3	2	1	地域の医療福祉を包括的に支援するという学園グループの目的を実現するために、より実践的な教育をめざした運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	③	2	1	毎年度、学園教育理念、学園ビジョンに沿って年度初めに具体的な学校経営目標が策定されている。 【教職員アンケート質問3 2. 9】
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	③	2	1	組織図、各種会議を設置し、活動計画を定めている。また議事録を回覧し職員への周知を図っている。 【教職員アンケート質問3 2. 9】
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	④	3	2	1	就業規則により整備されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	③	2	1	学園本部のもと、整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	③	2	1	法令に基づいた企業活動に努め、地域行事への参加、学校評価委員会等を通して、業界及び地域との関係は良好であり、社会規範・企業倫理等、コンプライアンス体制は保持されている。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④	3	2	1	学校HP、オープンキャンパス、学校ガイドブック、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会、こころ新聞等を通して、情報公開をしている。カリキュラム、時間割、シラバスは学生便覧に記載し学生に配布している。 【教職員アンケート質問4 3. 7】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	③	2	1	OA機器の導入、共有サーバーの構築をすることで、業務の効率化を図っている。

①課題

・科員が学科として達成すべき目標を強く意識し、共有する。

②今後の改善方策

・PDCAサイクルにおいて、学科として数値目標を多く取り入れた具体的な目標・実施計画を立て、目標達成の強い共通意識のもと目標実現に向けて協同実践する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	③	2 1	養成施設指定規則に則って、本学園の教育理念に基づき、実践的な職業教育が編成・実施されている。 【教職員アンケート質問5 3.4】
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	③	2 1	養成施設指定規則に則った修業年限や学習時間が設定され、目標とする到達レベルが明確にされている。 【教職員アンケート質問6 3.6】
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	④	3	2 1	教育課程編成委員会等を通して、養成施設指定規則に基づき、体系的に編成されている。 【教職員アンケート質問7 3.8】
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	③	2 1	教育課程編成委員会で関連企業との連携をとり、より実践に近い職業教育の工夫に努めている。 【教職員アンケート質問8 3.4】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	③	2 1	教育課程編成委員会等で関連業界との連携をとり、臨床実習を通して実践的な職業教育が実施されている。 【教職員アンケート質問9 3.4】
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	③	2 1	授業評価アンケートを年2回実施し、アンケート結果を全教員で回覧し、より良い授業を実施するためにPDCAの評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	④	3	2 1	年2回の教育課程編成委員会を開催し、評価を取り入れ、改善に努めている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	④	3	2 1	学生便覧に成績評価、単位認定、進級・卒業判定基準を明示し、随時学生に説明している。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	④	3	2 1	養成施設指定規則に基づき、専門基礎科目を土台とし、資格取得に関する指導体制、カリキュラムが体系的に位置づけられている。 【教職員アンケート質問10 3.8】
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	④	3	2 1	全教員が業界のニーズを意識し、業界の発展に携わることのできる人材育成を念頭に置いた学生への関わりを行っている。
・関連分野における優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	④	3	2 1	優れた教員を確保するために、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等を通して、常に関連企業との情報交換に努め、意識や知識の共有をはかっている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	③	2 1	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を通じて、現場と教員との意識や知識の共有を図っている。また、指導力向上のために定期的な研修会開催や、教職員が授業を互観することでより良い授業実施に努めている。 【教職員アンケート質問11 3.3】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	③	2 1	外部講師を招聘し職員研修会を年2回定期開催している。外部研修への参加も積極的に行っている。 【教職員アンケート質問12 3.1】

①課題

・授業内容や教授法について、把握、評価する体制の構築

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師と定期的に打ち合わせを行う。 ・計画的に、相互の授業見学を実施し、教授法の向上に努める。 ・教職員が参加した学会やセミナー等の伝達講習会を開催し、情報の共有化を図るとともに、教職員の授業力等、質の向上に努める。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・進学率・就職率の向上が図られているか。	4	③	2 1	企業説明会や学生面談で両者のニーズの把握に努める。新規求人先企業の開拓を積極的に行っている。 【教職員アンケート質問13 3.5】 【学生アンケート質問2 3.7】 平均3.6
・資格取得率の向上が図られているか。	④	3	2 1	資格・国家試験対策会議の実施、早期からの放課後補講の実施や個別面談による個々の勉強法の確立に努め、各種資格取得率の向上に取り組んでいる。 【教職員アンケート質問14 3.7】 【学生アンケート質問3 4.2】 平均4.0
・退学率の低減が図られているか。	4	③	2 1	問題学生について早期の保護者面談や個人面談、補講の実施等、退学者を減らす対策を講じている。 【教職員アンケート質問15 3.4】 【学生アンケート質問4 3.6】 平均3.5
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2 1	卒業生の就職先巡回や卒後教育等を実施し、おおむね把握している。 【教職員アンケート質問16 3.3】 【学生アンケート質問5 2.7】 平均3.0
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2 1	卒業生に広く呼びかけて、卒後研修会を実施している。そこで行われる現場との情報交換を通し、教育活動への還元に努めている。 【教職員アンケート質問17 3.5】 【学生アンケート質問6 3.4】 平均3.5

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の改善、学習能力の向上のために、更に工夫や努力が必要である。 ・退学率低減のために、更に工夫や努力が必要である。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業の更なる工夫と1年次からの放課後補講を充実させ、学力向上を図る。 ・臨床実習やトレーナー部での外部活動を通して学生の満足度向上を図る。 ・定期的な個人面談、成績不良者に対して適宜の個人面談と保護者面談を行い、またカウンセラーを活用し、落伍や退学の低減を図る。 ・就職活動の意識づけのため、卒業生の職場訪問を定期的を実施し、学生へ情報提供する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	④	3	2	1	担任の就職相談や校内で就職説明会を実施し、卒業後も学園グループの人材紹介事業を通して新しい就職情報を提示している。 【学生アンケート質問2 3.7】
・学生相談に関する体制は整備されているか。	④	3	2	1	担任等の教職員への相談、心理カウンセラーによる相談窓口を整備している。 【教職員アンケート質問18 3.6】 【学生アンケート質問7 3.9】 平均3.8
・学生に対する経済的な支援体制(アルバイトの紹介)は整備されているか。	4	③	2	1	アルバイト説明会の実施や学生の要望に応じ、随時アルバイトの求人を紹介している。 【教職員アンケート質問19 3.4】
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	④	3	2	1	生活指導委員会による安全・衛生指導を実施、また保健室を整備し、毎年定期の集団健康診断を実施している。 【教職員アンケート質問20 3.4】 【学生アンケート質問8 4.1】 平均3.8
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1	認可された課外活動に顧問を配置し、補助金を支給し奨励している。 【教職員アンケート質問21 2.8】 【学生アンケート質問9 3.4】 平均3.1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	③	2	1	遠隔地からの入学者に転居費用の一部補助等の支援を行っている。 【教職員アンケート質問22 2.9】 【学生アンケート質問10 3.9】 平均3.4
・保護者と適切に連携しているか。	4	③	2	1	入学前からの面談、入学後の成績状況、生活状況等、必要に応じて保護者との面談を実施している。 【教職員アンケート質問23 3.5】
・卒業生への支援体制はあるか。	4	③	2	1	不定期ながら、卒後教育として公開講座を開き、就職や転職の情報交換の場を設ける等、卒業後の支援に努めている。 【教職員アンケート質問24 3.1】 【学生アンケート質問12 3.5】 平均3.3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	③	2	1	国が定める「職業訓練事業」を受託し介護職についての研修講座を開講している。 【教職員アンケート質問25 3.3】 【学生アンケート質問13 3.7】 平均3.5
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	③	2	1	今年度はコロナ禍で高校訪問授業、高校でのガイダンス等を十分に実施できなかった。 【教職員アンケート質問26 3.0】

①課題

・保護者への、学校情報、学生の成績・生活状況等に関する情報提供の機会を増やす。

②今後の改善方策

・コロナ禍の中、保護者面談会の開催が難しい状況下で、配布物やホームページ等を活用し情報の提供・共有化を図る。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
<p>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。</p>	4	③	2 1
<p>・学内での実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。</p>	4	③	2 1
<p>・防災に対する体制は整備されているか。</p>	4	③	2 1

①課題

・よりよい教育環境を実現するための施設や設備のさらなる更新。
 ・臨床実習施設での外部実習の適切な実施。

・設備面でのメンテナンスなど、定期点検をさらに強化して、必要があれば更新する。
 ・コロナ禍の中、困難な状況であるが、臨床実習施設指導者と打ち合わせを繰り返し、実習者に実効性のある臨床実習を行う。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・学生募集活動は適性に行われているか。	④	3	2	1 募集活動は、ガイダンス等で職業紹介や県外流出を防ぐための地域貢献についての説明を行っている。高校生対象の入学試験は10月以降に実施している。 学生募集は適正に行われている。
・学生募集活動において教育成果(目標)は正確に伝えられているか。	④	3	2	1 募集パンフレットやインターネット上で就職率等を正確に伝えている。 【教職員アンケート質問30 3.8】
・学納金は妥当なものとなっているか。	④	3	2	1 他校に比較して平均的な設定となっている。 【教職員アンケート質問29 3.7】

①課題

・少子化や大学進学・県外進学が進行する中、専門学校への入学者数が減少している。職業教育について広報活動等を通して、高校新卒者、社会人にとって、魅力のある学校になるような取り組みが必要である。

②今後の改善方策

・今まで以上に高校新卒者・社会人にとって、職業教育校の魅力のある学校づくりを実施し、コスト削減を図りつつ効果のある広報活動を展開していく。具体的には、HPの更新・内容充実、配布物の内容充実、効率的な広報活動等の充実を図る。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1	少子化の中、入学者の確保のため教育内容の刷新を行うとともに、経費節減等で財務の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1	予算作成に際して、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	④	3	2	1	適宜、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	④	3	2	1	理事会を通じ、公開している。

①課題

・少子化による高校新卒者の減少、就職状況の向上による社会人入学希望者の減少に対して、如何に効果的な広報活動を行うか。

②今後の改善方策

・経費節減を行い、より効果的な広報活動を行う。
・附帯教育の強化等、新しい事業展開を検討する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。	④	3	2	1	学校教育法、各種養成施設設置規則等を遵守している。県の監督部署の指導調査では、概ね良好で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	④	3	2	1	個人情報管理規定の整備、文書ロッカーの施錠、使用済名簿のシュレッダー廃棄等を実施している。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	③	2	1	毎年、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会にて審議、協議を行い、改善を図っている。
・自己評価結果を公開しているか。	④	3	2	1	自己評価結果を学校関係者評価委員会、インターネット上の学校ホームページに公開している。

①課題

・学園グループ全体のネットワーク情報のセキュリティ管理の強化。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAシステムにより、諸問題に対して組織的に取り組み、学校力の向上を図る。 ・法令順守のみならず、社会規範・企業倫理に基づくコンプライアンスの意識の向上と体制強化に努める。 ・個人情報管理について、ネットワーク情報システム管理の強化と教職員のセキュリティ教育の推進。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 (3)	2	1 本校施設に於ける介護福祉に関する職業訓練事業の実施、コロナ禍の中、縮小されたが自治会行事、ボランティア活動への参加等を通して社会貢献、地域貢献を行った。 【教職員アンケート質問31 3.3】
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4 (3)	2	1 施設や自治会等からのボランティア依頼の伝達及び学生引率等を実施している。コロナ禍の中、例年より縮小されたが教員・学生によるトレーナー部の活動を通じて、地域の行事やスポーツ大会へのボランティア実習を実施した。 【教職員アンケート質問32 3.4】 【学生アンケート質問17 2.3】 平均2.9
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4 (3)	2	1 毎年一定の職業訓練生を受託している。関連する専門資格者による各種研修や、公開講座の開催等を実施している。 【教職員アンケート質問33 3.5】

①課題

・学校の立地や設備の制限のあるなか、最大限に活用する。

②今後の改善方策

・様々な団体との連携により、学内外の施設を利用した社会貢献と地域貢献の機会を増やしていく。
・コロナ禍の下で、どのようなボランティア活動が可能なのか、模索していく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・留学生の受入れについて戦略を持って行っているか。	4	③	2 1	日本語科留学生の卒業後の進路設計を行いながら、担当者が現地に赴き、質の高い留学生の獲得に努めている。
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	③	2 1	留学生の受入れについて、慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行ってきた。今後も入国管理局の指導のもと、適切な手続きを通して留学生の受け入れ、在籍管理を行っていく。 【教職員アンケート質問34 3.5】
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	③	2 1	留学生担当の教員、事務責任者を配置し組織的な学習指導体制の整備を進めている。清掃、喫煙等、寮での生活のあり方は、充分ではないが改善されつつある。 【教職員アンケート質問35 3.3】
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	③	2 1	上級学校への進学、その後の就職の為に日本語能力試験(N2, N3)の合格者を多数輩出する為の指導を行っているが、国際的な評価を得るまでには到っていない。 【教職員アンケート質問36 2.7】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・多様な留学生に対し、日本文化・互いの生活文化の相互理解をいかに促進させるか。 ・いかに学習意欲を向上させ、希望する進学を実現させるか。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・授業や寮生活のあらゆる場面で、教職員が日本の生活習慣や文化に触れる環境を提供する。またアルバイトや地域行事への参加等を通して、日本の生活文化に触れさせる。 ・専門学校や大学等、希望する進学を実現させるために、進路に関する情報の収集と周知、興味関心を持たせる授業の工夫に努める。
--

③特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和2年度の総括

1 互観授業、授業研究の実施

教員間で授業形式・授業進度・授業内容や説明方法の模擬授業・互観授業を行った。授業進行速度・授業進度、授業内容について、客観的立場から観察することにより、説明が不十分だった箇所を修正し、より分かりやすい授業を実施できた。

2 模擬試験結果検討会、学力検討会の実施

3年生は、模擬試験毎に結果を基にABC評価を行った。C評価の学生は、補講対象者とし、週に3日授業終了後に基礎学力向上を目的に補講を行った。補講の内容は、問題の解説作りと確認テストを交互に行い、特に国家試験の必修問題の対策とした。低学力の学生に効果があり、国家試験合格に繋がった。

2年生に対して、基礎学力の定着と自宅学習の習慣化を目的に、週2回の放課後補講と月1回の確認テストを行った。放課後に残って学習する学生は増えた。

3 早期個別面談による意識啓発と学生理解の深化

全学年4月と9月に面談を行った。特に9月の面談では前期試験の結果を踏まえて学習指導や生活習慣での注意点を指摘した。低学力の学生は、後期試験前にも面談を行い、改めて学習指導を行ったが、留年生が数名出てしまった。

3年生は、模試毎に低学力の学生と面談を行い、国家試験や卒業試験に向けて指導を行った結果、全員が卒業試験に合格したが、2名は国家試験不合格となってしまったので、今後の課題とする。

4 連携校・諸施設との連携・関係強化

本来であれば新カリキュラムの下、10数軒の整骨院において、臨床実習を行う予定であったが、コロナウイルスの影響により学内での実習に変更した。連携高校での学校説明や文化祭でのボランティア等に関しても同様にコロナウイルスの影響により実施ができなかった。

学園内日本語科3校(長崎校・佐世保校・島原校)が連携して合同スピーチコンテスト、合同ウェルカムセレモニー(入学式)を実施することができなかった。また、学生担当者会議をリモートで実施し、情報交換・情報共有に努めた。

5 PDCAシステムによる、組織として機能する学校づくり

組織として機能する学校づくりを実現するため、PDCAサイクルのもと、教育部門、総務部門それぞれの課題、目標を設定し、前期・後期それぞれに学科長面談、校長面談を実施した。教育部門各科、総務として掲げた目標を構成員全員がその目標達成のため独自の推進方策(実施策)を設定し、前期・後期それぞれに進捗状況を確認し、組織としての到達目標達成のために取り組んだ。

6 日本語科の取り組み

本年はコロナ禍の影響で、様々な活動に制限ができたが、その中でもできることは積極的に実施した1年であった。毎年7月と12月に受験してきたJLPT(日本語能力試験)は、今年の7月が中止となったため、代替として実用日本語検定J.TESTを初めて受験した。今年度卒業生41名の内、7割程度の学生がCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のA2レベル以上に認定された。日本文化の理解を深める取り組みは、課外活動は自粛したが、七夕や節分、書初め等、授業での文化活動を多く取り入れた。

また、今年度は初めて1年コースの卒業生を輩出した。全員が日本の企業への就職が決定した。希望進路への就職率100%達成に向けて進学指導を早めに取り組み、進学希望者全員が希望の進学先へ進学することができた。うち0名は、「連携施設奨学金制度」を利用し、こころ医療福祉専門学校介護福祉科へ進学する。

1. 学校の教育目標 令和3年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる。
- 2 ビジョン実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける。
地域社会から必要とされる人材を提供する。
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
 - (1)「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進
 - (2)国家試験合格率及び就職率100%達成
 - (3)留学生教育の質の向上とJLPT4級以上全員合格の達成
 - (4)学校体制として取り組む学生募集—最低確保学生20名
 - (5)報告・連絡・相談等による情報の共有と職場の活性化
- 5 具体的な対策
 - (1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
 - (2)豊かな人間力の育成
 - (3)退学者 不登校生の減少対策の推進
 - (4)国家試験 進路指導の充実
 - (5)問題解決型学校経営から問題発見型学校経営へ
 - (6)留学生教育の質の向上
 - (7)「攻めの学生募集」の推進
- 6 地域に信頼される学校づくり
 - (1)学園グループビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (2)関係各校、機関、施設等との連携の強化

2. 令和3年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- (1) 「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進
 - ①「教育の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進
 - ②学生の「意思ある学び」に繋ぐ教員の学生指導力と学級経営力の向上
 - ③学生の多様化・学力低下傾向に対する創意工夫と粘り強い指導の推進
- (2) 国家試験合格率及び就職率100%達成
 - ①各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
 - ②「学科会」の定例化と「模擬試験結果分析会」や「学力検討会」の開催
 - ③個を重視した「キャリア教育」と年間指導計画に基づいた就職指導の推進
 - ④「導入期教育」と「卒後教育」の充実
- (3) 留学生教育の質の向上とJLPT4級以上全員合格の達成
 - ①留学生の指導体制の構築と学園内連携の強化
 - ②日本語能力検定試験での全留学生のN4以上合格達成と進路開拓
 - ③日本の基本的な生活習慣の確立
- (4) 学校体制として取り組む学生募集—最低確保学生数20名
 - ①高校との連携強化と信頼関係の構築—学校訪問・情報提供・広報啓発等
 - ②学校体制としての学習募集の推進—広報課を中心に全職員で取り組む学生募集
- (5) 報告・連絡・相談等による情報の共有と職場の活性化
 - ①すべては初期対応が命と考え、早めにまめにを基本とする
 - ②学科会を定例化し、情報の共有を図る
 - ③独りよがりな判断、対応をせず、学校としての的確な対応をする